

平成29年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	継続：授業評価の回答率が40～60%と前年よりは改善してきているものの、依然10%代と低い科目も見受けられる。継続的な改善が必要である。
	理由	最終授業の後半10分程度時間を取って入力するよう指導している教員が多いが、実施に至っていないことに起因する。コンピュータラボに出向く学生が少ない。スマートフォンでの入力も可能なことから入力方法等の周知が必要と考える。
②	課題	継続：座学講義において、予習・復習を含め、授業時間外の学修時間が前年同様少ない。
	理由	自発的な授業外学修が望ましいが、予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。
③	課題	継続：授業評価アンケートでの授業の到達目標度合いで、科目によっては授業の理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。
	理由	②の予習・復習が行えていないことに加えて、基礎科目での学修が十分出来ておらず、それに繋がる応用科目の理解度がより低くなっていると考えられる。
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。		
①	本課題については、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図ると共に、授業時間内(14回目、15回目)に時間を取り、回答手順の説明、さらにコンピュータラボではなく、講義室において自身のスマートフォンやパソコンで回答するよう学生に指導して頂く。	
②	本課題については、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、グループワークやLTD (Learning Through Discussion) 課題を事前に取り組ませること、さらに宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施をお願いすることで、授業外学修の習慣付けを実現する。	
③	本課題については、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD (Learning Through Discussion)、ピアサポートの実施・活用をお願いする。さらに、学群・研究科教務委員会を中心に、関連科目間の講義内容の一貫性・連続性の確認と内容の見直しにより学修効率の向上を実現する。	

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
「ケースメソッドの手法により、学生が主体的に考え、発表する、議論することに取り組んだ」、「コメントカードに記された質問には必ず答えることとし、さらに、それが授業のみならず実生活でどう活用できか等を具体的な事例を示した」、「生産・加工現場等のビデオを織り交ぜながら解説した」、「授業の終わりに学びの確認のための小テストを行い、重要ポイントの理解を深めると共に、理解していない点を次回の授業で解説・補足説明した」、「実験マニュアルについて、実験開始前に十分に説明するとともに、学生グループ毎に内容を教習する時間を作った」、「練習問題について、学生間でディスカッションしながら回答する時間を設けた」など	
2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
昨年に引き続き、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。	